



Sun Fire™ V1280/Netra™ 1280 システムコントローラ コマンドリファレンスマニュアル

Sun Microsystems, Inc.
4150 Network Circle
Santa Clara, CA 95054
U.S.A.

Part No. 817-1424-10
2003 年 2 月, Revision A

コメントの宛先: docfeedback@sun.com

Copyright 2003 Sun Microsystems, Inc., 4150 Network Circle, Santa Clara, CA 95054 U.S.A. All rights reserved.

米国 Sun Microsystems, Inc. (以下、米国 Sun Microsystems 社とします)は、本書に記述されている製品に採用されている技術に関する知的所有権を有しています。これら知的所有権には、<http://www.sun.com/patents>に掲載されているひとつまたは複数の米国特許、および米国ならびにその他の国におけるひとつまたは複数の特許または出願中の特許が含まれています。

本書およびそれに付随する製品は著作権法により保護されており、その使用、複製、頒布および逆コンパイルを制限するライセンスのもとにおいて頒布されます。サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による事前の許可なく、本製品および本書のいかなる部分も、いかなる方法によっても複製することが禁じられます。

本製品のフォント技術を含む第三者のソフトウェアは、著作権法により保護されており、提供者からライセンスを受けているものです。

本製品の一部は、カリフォルニア大学からライセンスされている Berkeley BSD システムに基づいていることがあります。UNIX は、X/Open Company Limited が独占的にライセンスしている米国ならびに他の国における登録商標です。

本製品は、株式会社モリサワからライセンス供与されたリュウミン L-KL (Ryumin-Light) および中ゴシック BBB (GothicBBB-Medium) のフォント・データを含んでいます。

本製品に含まれる HG 明朝 L と HG ゴシック B は、株式会社リコーがリョービマジクス株式会社からライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。平成明朝体 W3 は、株式会社リコーが財団法人日本規格協会 文字フォント開発・普及センターからライセンス供与されたタイプフェースマスタをもとに作成されたものです。また、HG 明朝 L と HG ゴシック B の補助漢字部分は、平成明朝体 W3 の補助漢字を使用しています。なお、フォントとして無断複製することは禁止されています。

Sun, Sun Microsystems, AnswerBook2, docs.sun.com は、米国およびその他の国における米国 Sun Microsystems 社の商標もしくは登録商標です。サン・ロゴマークおよび Solaris は、米国 Sun Microsystems 社の登録商標です。

すべての SPARC 商標は、米国 SPARC International, Inc. のライセンスを受けて使用している同社の米国およびその他の国における商標または登録商標です。SPARC 商標が付いた製品は、米国 Sun Microsystems 社が開発したアーキテクチャーに基づくものです。

OPENLOOK、OpenBoot、JLE は、サン・マイクロシステムズ株式会社の登録商標です。

ATOK は、株式会社ジャストシステムの登録商標です。ATOK8 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK8 にかかる著作権その他の権利は、すべて株式会社ジャストシステムに帰属します。ATOK Server/ATOK12 は、株式会社ジャストシステムの著作物であり、ATOK Server/ATOK12 にかかる著作権その他の権利は、株式会社ジャストシステムおよび各権利者に帰属します。

本書で参照されている製品やサービスに関しては、該当する会社または組織に直接お問い合わせください。

OPENLOOK および Sun Graphical User Interface は、米国 Sun Microsystems 社が自社のユーザーおよびライセンス実施権者向けに開発しました。米国 Sun Microsystems 社は、コンピュータ産業用のビジュアルまたはグラフィカル・ユーザーインタフェースの概念の研究開発における米国 Xerox 社の先駆者としての成果を認めるものです。米国 Sun Microsystems 社は米国 Xerox 社から Xerox Graphical User Interface の非独占的ライセンスを取得しており、このライセンスは米国 Sun Microsystems 社のライセンス実施権者にも適用されます。

U.S. Government Rights—Commercial use. Government users are subject to the Sun Microsystems, Inc. standard license agreement and applicable provisions of the FAR and its supplements.

本書は、「現状のまま」をベースとして提供され、商品性、特定目的への適合性または第三者の権利の非侵害の黙示の保証を含みそれに限定されない、明示的であるか黙示的であるかを問わない、なんらの保証も行われぬものとします。

本書には、技術的な誤りまたは誤植の可能性があります。また、本書に記載された情報には、定期的に変更が行われ、かかる変更は本書の最新版に反映されます。さらに、米国サンまたは日本サンは、本書に記載された製品またはプログラムを、予告なく改良または変更することがあります。

本製品が、外国為替および外国貿易管理法(外為法)に定められる戦略物資等(貨物または役務)に該当する場合、本製品を輸出または日本国外へ持ち出す際には、サン・マイクロシステムズ株式会社の書面による承諾を得ることのほか、外為法および関連法規に基づく輸出手続き、また場合によっては、米国商務省または米国所轄官庁の許可を得ることが必要です。

原典:	Sun Fire V1280/Netra 1280 System Controller Command Reference Manual Part No: 817-0511-10 Revision A
-----	--



目次

システムコントローラコマンドの概要	1
FRU 状態およびテスト状態	3
システムコントローラコマンド一覧 (アルファベット順)	4
bootmode	4
break	6
console	7
disablecomponent	8
enablecomponent	10
flashupdate	12
help	15
history	17
inventory	18
logout	19
password	20
poweroff	21
poweron	22
reset	24
resetsc	26
setalarm	28

setdate 29
setescape 31
seteventreporting 33
setlocator 35
setupnetwork 36
setupsc 38
showalarm 40
showboards 41
showcomponent 50
showdate 53
showenvironment 54
showescape 58
showeventreporting 59
showfault 60
showhostname 61
showlocator 62
showmodel 64
shownetwork 65
showresetstate 67
showsc 68
shutdown 69
testboard 70

用語集 71

索引 73

表目次

表 1	システムコントローラコマンドの概要	1
表 2	FRU の状態	3
表 3	テストの状態	3
表 4	disablecomponent コマンドの <component_name> の説明	8
表 5	enablecomponent コマンドの <component_name> の説明	10
表 6	setupnetwork の属性	36
表 7	showboards コマンドの出力ヘッダーの定義	49
表 8	showcomponent コマンドの <component_name> の説明	50
表 9	showenvironment コマンドの出力ヘッダーの定義	57

コード例

コード例 1	動作している Solaris から OpenBoot PROM へシステムを移行するための <code>break</code> コマンド 6
コード例 2	I/O アセンブリのフラッシュ PROM を更新するための <code>flashupdate</code> コマンド 14
コード例 3	<code>history</code> コマンド 17
コード例 4	<code>password</code> コマンド 20
コード例 5	システムコントローラをリセットするための <code>resetsc</code> コマンド 26
コード例 6	<code>showboards</code> コマンド 42
コード例 7	<code>showboards -e</code> コマンド 42
コード例 8	<code>showboards -v</code> コマンド 43
コード例 9	<code>showboards -p memory</code> コマンド 46
コード例 10	<code>showboards -p version</code> コマンド 47
コード例 11	<code>showboards -p io</code> コマンド 47
コード例 12	<code>showboards -p serial</code> コマンド 47
コード例 13	<code>showboards -p cpu</code> コマンド 49
コード例 14	CPU/メモリーボードに対する <code>showcomponent</code> コマンド 51
コード例 15	IB_SSC FRU の IB6 サブアセンブリに対する <code>showcomponent</code> コマンド 52
コード例 16	<code>showdate</code> コマンド 53
コード例 17	<code>showenvironment</code> コマンド 55
コード例 18	<code>showsc</code> コマンド 68

はじめに

このマニュアルでは、システムコントローラのコマンド行インターフェースの使用方法について説明します。システムコントローラのコマンド行インターフェースでは、システムの機能を制御して、環境の監視およびハードウェアの制御を行います。システムコントローラソフトウェアを使用すると、ボードおよび電源装置、ファン、その他のコンポーネントの電源投入および切断を実行できます。

お読みになる前に

このマニュアルは、Solaris™ オペレーティング環境に関する知識を持つシステム管理者を対象としています。そのような知識がない場合は、まず、Solaris のユーザーおよびシステム管理者用 AnswerBook を読み、UNIX® システム管理のトレーニングを受けることをお勧めします。

マニュアルの構成

このマニュアルでは、一般ユーザー用に設計されたすべてのシステムコントローラコマンドの概要について説明します。また、コマンドをアルファベット順に示して、その詳細およびコマンド構文、コマンドの出力例について説明します。

書体と記号について

書体または記号	意味	例
AaBbCc123	コマンド名、ファイル名、ディレクトリ名、画面上のコンピュータ出力、コード例。	.login ファイルを編集します。 ls -a を実行します。 % You have mail.
AaBbCc123	ユーザーが入力する文字を、画面上のコンピュータ出力と区別して表します。	マシン名% su Password:
AaBbCc123 またはゴシック	コマンド行の可変部分。実際の名前や値と置き換えてください。	rm <i>filename</i> と入力します。 rm ファイル名 と入力します。
『 』	参照する書名を示します。	『Solaris ユーザーマニュアル』
「 」	参照する章、節、または、強調する語を示します。	第 6 章「データの管理」を参照。 この操作ができるのは「スーパーユーザー」だけです。

シェルプロンプトについて

シェル	プロンプト
UNIX の C シェル	マシン名%
UNIX の Bourne シェルと Korn シェル	\$
スーパーユーザー (シェルの種類を問わない)	#
LOM シェル	lom>

関連マニュアル

用途	マニュアル名	Part No.
システム管理	『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』	817-1419

Sun のオンラインマニュアル

各言語対応版を含むサンの各種マニュアルは、次の URL から表示または印刷、購入できます。

<http://www.sun.com/documentation>

コメントをお寄せください

弊社では、マニュアルの改善に努力しており、お客様からのコメントおよびご忠告をお受けしております。コメントは下記宛に電子メールでお送りください。

docfeedback@sun.com

電子メールの表題にはマニュアルの Part No. (817-1424-10) を記載してください。

なお、現在日本語によるコメントには対応できませんので、英語で記述してください。

コマンドリファレンス (アルファベット順)

このマニュアルでは、一般ユーザー用に設計されたすべてのシステムコントローラコマンドの概要を一覧で示します。また、各システムコントローラコマンドの詳細およびコマンド構文、使用例について説明します。

システムコントローラコマンドの概要

表 1 に、システムコントローラコマンドとその使用方法を示します。

表 1 システムコントローラコマンドの概要

コマンド	説明
bootmode	次の再起動時に Solaris が起動する方法を設定します。
break	コンソールにブレーク信号を送信します。
console	コンソール接続を開きます。
disablecomponent	ブラックリストにコンポーネントを追加します。
enablecomponent	ブラックリストからコンポーネントを削除します。
flashupdate	フラッシュ PROM を更新します。
help	基本的なヘルプ情報を表示します。
history	コマンド履歴を、日付およびタイムスタンプと一緒に表示します。
inventory	FRU またはシステムの SEEPROM の内容を表示します。
logout	接続からログアウトします。
password	LOM のアクセスパスワードを設定します。
poweroff	システムまたはコンポーネントの電源を切ります。

表 1 システムコントローラコマンドの概要 (続き)

コマンド	説明
poweron	システムまたはコンポーネントの電源を入れます。
reset	システムをリセットします。
resetsc	システムコントローラ (LOM) をリセットします。
setalarm	システムアラームを設定します。
setdate	システムコントローラの日付および時刻、タイムゾーンを設定します。
setescape	LOM のエスケープ文字を設定します。
seteventreporting	イベントレポートを設定します。
setlocator	ロケータ LED を設定します。
setupnetwork	LOM のネットワーク属性を設定します。
setupsc	システムコントローラ (LOM) を設定します。
showalarm	システムアラーム LED の状態を表示します。
showboards	システムのボードの状態および割り当てに関する情報を表示します。
showcomponent	コンポーネントの一覧を表示します。
showdate	日付および時刻を表示します。
showenvironment	現在の環境状態および温度、電流、電圧、ファンの回転速度などを表示します。
showescape	LOM のエスケープ文字を表示します。
showeventreporting	イベントレポートの設定を表示します。
showfault	システム障害 LED の状態を表示します。
showhostname	ホスト名を表示します。
showlocator	システムロケータ LED の状態を表示します。
showlogs	ログを表示します。
showmodel	プラットフォームモデルを表示します。
shownetwork	LOM のネットワーク設定を表示します。
showresetstate	リセット後の CPU レジスタを表示します。
showsc	システムコントローラの稼働時間およびバージョン情報を表示します。
shutdown	Solaris を停止し、システムをスタンバイモードにします。
testboard	CPU/メモリーボードを単独でテストします。

FRU 状態およびテスト状態

表 2 および表 3 に、FRU の状態とテストの状態を示します。

表 2 FRU の状態

値	説明
Disabled	FRU はブラックリストに登録されています (RPx のみ)。
Assigned	FRU はシステムに割り当てられています。
Active	FRU はシステムで使用されています。
Auto Speed	ファンは、温度に応じて規定された回転速度で動作しています (FT0 のみ)。
High Speed	ファンは、最高回転速度で動作しています (FT0 のみ)。
Unknown Speed	ファンの回転速度が不明です (FT0 のみ)。
Main	FRU はメインシステムコントローラです (SSC1 のみ)。
Unknown	FRU の状態が不明です。
-	関連する FRU の状態はありません。

表 3 テストの状態

テストの状態	説明
Passed/OK	すべてのボードコンポーネントがテストに合格しました。
Degraded	テストが失敗したか、通常の操作中に障害が発生しています。また、コンポーネントが使用不可になっている可能性もあります。ボードはまだアクセス可能で、ボードに接続された一部の装置は使用可能なままです。
Disabled	FRU はブラックリストに登録されています。
Failed	ボードはテストで不合格でした。
Under Test	システムで電源投入時自己診断 (POST) が実行されています。ボードの状態は、Assigned または Active に切り替わります。
Not Tested	テストが実行されていません。
-	スロットが空いているか、テストが実行されていません。

システムコントローラコマンド一覧 (アルファベット順)

この節では、システムコントローラコマンドについて説明します。

bootmode

次の再起動時に Solaris が起動する方法を設定します。

構文

```
bootmode normal
bootmode [diag|skipdiag] [forth] [reset_nvram]
bootmode -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

normal を指定すると、次の再起動時に、OpenBoot PROM は OBP 変数の verbosity-level および diag-level に指定された値を使用してシステムを起動します。また、以前に要求された bootmode コマンドは、時間切れになるとすべてこの値でクリアされます。

diag を指定すると、次の再起動時に、OpenBoot PROM は CPU POST の verbosity-level および diag-level が max に設定されている場合と同じように、システムを起動します。この場合、Solaris を起動する前に最高レベルの POST が必ず実行されます。

skipdiag を指定すると、次の再起動時に、OpenBoot PROM は CPU POST の verbosity-level が min に、diag-level が init に設定されている場合と同じように、システムを起動します。この場合、Solaris を起動する前に最短時間で POST が実行されます。

forth を指定すると、OBP 変数の auto-boot? が true に設定されていても、次の再起動時に OpenBoot PROM が ok プロンプトを表示して停止します。これによって、起動時に Solaris が自動的に起動されることを防止できます。

reset_nvram を指定すると、次の再起動時に、OpenBoot PROM は OBP の NVRAM 変数をリセットします。

説明

次の再起動時に Solaris が起動する方法を設定します。

bootmode コマンドを実行すると、次の Solaris の再起動時に OpenBoot PROM によって読み取られるフラグが設定されます。10 分以内にシステムが再起動しないと、bootmode の値は normal に戻されます。また、システムがいったん再起動した場合も、bootmode の値は normal に設定されます。bootmode が normal に設定されていると、OBP によって直接 OBP 値の verbosity-level および diag-level が使用され、起動時の POST の動作が制御されます。

関連項目

reset、break、OBP の setenv (verbosity-level、diag-level)

例

```
l0m>bootmode skipdiag
```

break

Solaris コンソールにブレイク信号を送信します。

構文

```
break [-y|-n]  
break -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-y を指定すると、確認のプロンプトが表示されません。

-n を指定すると、確認が必要な場合にはコマンドが実行されません。

説明

Solaris コンソールに 30 ミリ秒のブレイク信号を送信します。

Solaris コンソールは、ブレイク信号の送信後に再開されます。Solaris オペレーティング環境が動作し、システムがセキュリティー保護モードでない場合、通常、このコマンドを使用すると、強制的に PROM またはデバッガが起動されます。

関連項目

console、setupsc

例

コード例 1 動作している Solaris から OpenBoot PROM へシステムを移行するための break コマンド

```
lom>break  
  
This will suspend Solaris.  
Do you want to continue? [no] y  
Type 'go' to resume  
{0} ok
```

console

Solaris または OpenBoot PROM コンソールに接続します。

構文

```
console  
console -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

Solaris または OpenBoot PROM が起動されると、lom> プロンプトを抜けて Solaris または OpenBoot PROM コンソールに接続します。LOM のエスケープシーケンスが入力されるまで、システムはコンソールモードのままです。

注 - console コマンド (キャリッジリターンを含む) の実行後、もう一度キャリッジリターンが入力されるまでプロンプトは表示されません。その時点で、Solaris コンソールに送信された出力が存在する場合は、次のキャリッジリターンが入力された直後に表示されます。

関連項目

setescape、showescape

例

```
lom>console  
  
console login:
```

disablecomponent

ブラックリストにコンポーネントを追加します。

構文

```
disablecomponent <component_name> [<component_name> ...]  
disablecomponent -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

<component_name> には、表 4 に示す値を指定します。

表 4 disablecomponent コマンドの <component_name> の説明

コンポーネントの説明	<component_name> の値
CPU システム	<slot> [/<port> [/<physical_bank> [/<logical_bank>]]]
CPU/メモリーボード (slot)	sb0、sb2、sb4
CPU/メモリーボード上のポート	p0、p1、p2、p3
CPU/メモリーボード上の物理メモリーバンク	b0、b1
CPU/メモリーボード上の論理バンク	10、11、12、13
リピータシステム	<slot>
リピータボード	rp0、rp2
I/O アセンブリシステム	<slot>/<port>/<bus>/<card>
I/O アセンブリ (slot)	ib6
I/O アセンブリ上のポート	p0、p1
I/O アセンブリ上のバス	b0、b1
I/O アセンブリ上の入出力カード	pci0、pci1、pci2、pci3、pci4、pci5

説明

ブラックリストにコンポーネントを追加します。ブラックリストに登録されたシステムボードコンポーネントは、次のシステムの再起動時にテストされず、システムに構成されません。また、CPU/メモリーボードやそのコンポーネントの場合は、次にシステムが動的に再構成されたときに、構成から外されます。ブラックリストは、非揮発性のメモリーに保存されます。

ボードまたはコンポーネントをブラックリストに登録すると、次の再起動後にそのボードまたはコンポーネントが使用できなくなります。また、CPU/メモリーボードの場合は、次にシステムが動的に再構成されたときから使用できなくなります。

対象となるコンポーネントは、次のとおりです (表 4 を参照)。

- CPU ポート (CPU プロセッサ)
- 物理および論理メモリーバンク
- 入出力カード
- システムボード
- リピータ

注 – リピータボードをブラックリストに追加するには、`shutdown` コマンドを実行してシステムをスタンバイ状態にしてから `disablecomponent` コマンドを実行する必要があります。このコマンドが入力されると、LOM/システムコントローラは新しい構成を有効にするために、自動的に再起動します。

関連項目

`enablecomponent`、`showcomponent`、『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』(コンポーネントをブラックリストへ追加する手順)

例

`<slot> sb4` をブラックリストに追加する場合は、次のように入力します。

```
lom>disablecomponent sb4
```

`<slot> sb0` のプロセッサ `p3` およびそれに関連するメモリー DIMM をブラックリストに追加する場合は、次のように入力します。`<slot> sb0` があとでシステムに構成された場合でも、プロセッサ `p3` はリセット状態のままであることを注意してください。

```
lom>disablecomponent sb0/p3
```

`<slot> sb2` のプロセッサ `p3` の物理メモリーバンク `b0` にあるメモリー DIMM をブラックリストに追加する場合は、次のように入力します。

```
lom>disablecomponent sb2/p3/b0
```

PCI スロット pci2 をブラックリストに追加する場合は、次のように入力します。

```
lom>disablecomponent ib6/p1/b1/pci2
```

enablecomponent

ブラックリストからコンポーネントを削除します。

構文

```
enablecomponent <component_name> [<component_name> ...]  
enablecomponent -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

<component_name> には、表 5 に示す値を指定します。

表 5 enablecomponent コマンドの <component_name> の説明

コンポーネントの説明	<component_name> の値
CPU システム	<slot> [/<port> [/<physical_bank> [/<logical_bank>]]]
CPU/メモリーボード (slot)	sb0、sb2、sb4
CPU/メモリーボード上のポート	p0、p1、p2、p3
CPU/メモリーボード上の物理メモリーバンク	b0、b1
CPU/メモリーボード上の論理バンク	10、11、12、13
リピータシステム	<slot>
リピータボード	rp0、rp2
I/O アセンブリシステム	<slot>/<port>/<bus>/<card>
I/O アセンブリ (slot)	ib6
I/O アセンブリ上のポート	p0、p1
I/O アセンブリ上のバス	b0、b1
I/O アセンブリ上の入出力カード	pci0、pci1、pci2、pci3、pci4、pci5

説明

ブラックリストからコンポーネントを削除します。ブラックリストに登録されているシステムボードコンポーネントは、次のシステムの再起動時にテストされず、システムに構成されません。また、CPU/メモリーボードやそのコンポーネントの場合は、次にシステムが動的に再構成されたときに、構成から外されます。ブラックリストは、非揮発性のメモリーに保存されます。

対象となるコンポーネントは、次のとおりです。

- CPU ポート (CPU プロセッサ)
- 物理および論理メモリーバンク
- I/O カード
- システムボード
- リピータ

CPU/メモリーボードやそのコンポーネントの場合、次の動的再構成の操作後にこのコマンドによる削除が有効になります。I/O アセンブリのコンポーネントの場合は、次の再起動後に有効になります。

注 – リピータボードをブラックリストから削除するには、shutdown コマンドを実行してシステムをスタンバイ状態にしてから enablecomponent コマンドを実行する必要があります。このコマンドが入力されると、LOM/システムコントローラは新しい構成を有効にするために自動的に再起動します。

関連項目

disablecomponent、showcomponent、『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』(コンポーネントをブラックリストから削除する手順)

例

<slot> sb4 をブラックリストから削除する場合は、次のように入力します。

```
lom>enablecomponent sb4
```

PCI カード pci2 をブラックリストから削除する場合は、次のように入力します。

```
lom>enablecomponent ib6/p1/b1/pci2
```

flashupdate

システムコントローラまたはすべてのシステムボード、指定したボード番号のフラッシュ PROM を更新します。

構文

```
flashupdate [-y|-n] -f <URL> all
flashupdate [-y|-n] -f <URL> systemboards|scapp|rtos|<board> ...
flashupdate [-y|-n] -u
flashupdate [-y|-n] -c <source_board> <destination_board>
flashupdate -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-y を指定すると、確認のプロンプトが表示されません。

-n を指定すると、確認が必要な場合にはコマンドが実行されません。

-f には、フラッシュイメージのソースの URL を指定します。

<URL> は、フラッシュイメージを含むディレクトリを示す URL です。サポートされるプロトコルは、次のとおりです。

`ftp://[userid:password@]hostname/path`

`http://hostname/path`

-c には、フラッシュイメージのソースになるボードを指定します。

-u を指定すると、ボードが現在のファームウェアのバージョンにアップグレードされます。

all を指定すると、システムコントローラおよびすべてのシステムボードが対象になります。

scapp を指定すると、システムコントローラが対象になります。このオプションを指定すると、システムコントローラの再起動が必要になります。

rtos を指定すると、システムコントローラのリアルタイムオペレーティングシステムが対象になります。このオプションを指定すると、システムコントローラの再起動が必要になります。

systemboards を指定すると、すべての CPU/メモリーボードおよび I/O アセンブリ (SB0 および SB2、SB4、IB6) が対象になります。

システムコントローラをフラッシュ更新すると、コマンドによって次のメッセージが表示されます。

```
As part of this update, the system controller will automatically reboot.
```

```
ScApp will be upgraded automatically during the next boot.
```

```
Rebooting will interrupt any current operations.
```

```
This includes keyswitch changes, Solaris reboots  
and all current connections.
```

```
Do you want to continue? [no]
```

注 - flashupdate では、ユーザー ID とパスワードでセキュリティー保護された HTTP URL からフラッシュイメージを取り出すことはできません。ファイルが存在する場合でも、「flashupdate: failed, URL does not contain required file: <file>」というメッセージが返されます。

説明

システムコントローラまたはすべてのシステムボード、指定したボード番号のフラッシュ PROM を更新します。

フラッシュ PROM は、CPU/メモリーボードおよび I/O アセンブリ、システムコントローラボード上にあります。リピータボードにはフラッシュ PROM はありません。

関連項目

『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』(ファームウェアを更新する手順)

例

I/O アセンブリ上の特定のフラッシュ PROM を更新する場合は、次のように入力します。

コード例 2 I/O アセンブリのフラッシュ PROM を更新するための
flashupdate コマンド

```
lom>flashupdate -f ftp://host/path ib6
Waiting for critical processes to finish.  This may take a while.
Critical processes have finished.

Retrieving: ftp://host/path/sgpci.flash
Validating ..... Done

Programming PROM /N0/IB6/FP0
Erasing ..... Done
Programming ..... Done
Verifying ..... Done
```

CPU/メモリーボード sb0 を更新する場合は、次のように入力します。

```
lom>flashupdate ftp://host/path sb0
Waiting for critical processes to finish.  This may take a while.
Critical processes have finished.

Retrieving: ftp://host/path/sgcpu.flash
Validating ..... Done

Programming PROM /N0/SB0/FP0
Erasing ..... Done
Programming ..... Done
Verifying ..... Done

Programming PROM /N0/SB0/FP1
Erasing ..... Done
Programming ..... Done
Verifying ..... Done
lom>
```

システムコントローラファームウェアを更新する場合は、次のように入力します。

```
lom>flashupdate -f ftp://host/path scapp
As part of this update, the system controller will automatically reboot.

ScApp will be upgraded automatically during the next boot.
Rebooting will interrupt any current operations.
This includes keyswitch changes, Solaris reboots
and all current connections.
Do you want to continue? [no]
```

help

引数を指定せずに入力すると、使用可能な LOM コマンドがすべて表示されます。引数を指定すると、指定したコマンドの基本的な使用方法と簡略な説明が表示されます。

構文

```
help [<command_name>]
help [<partial_command_name>]
help -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

<command_name> には、LOM のコマンド名を指定します。

<partial_command_name> には、コマンドの 1 文字またはコマンド名の一部 (show など) を指定できます。

説明

引数を指定せずに help コマンドを実行すると、使用可能な LOM のコマンドがすべて表示されます。引数を指定すると、指定したコマンドの基本的な使用方法と簡略な説明が表示されます。

例

setlocator コマンドのヘルプ情報を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom>help setlocator

setlocator -- set the system locator led

Usage: setlocator on|off
       setlocator -h

       -h -- display this help message

lom>
```

show で始まるすべてのコマンドを表示する場合は、次のように入力します。

```
lom>help show
```

b で始まるすべてのコマンドを表示する場合は、次のように入力します。

```
lom>help b
```

history

コマンド履歴を、日付およびタイムスタンプと一緒に表示します。

構文

```
history  
history -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

現在の接続でのコマンド履歴を、日付およびタイムスタンプと一緒に表示します。

例

コード例 3 history コマンド

```
lom>history  
Nov 26 14:34:37 : showalarm 1  
Nov 26 14:34:40 : showalarm 2  
Nov 26 14:34:45 : showalarm system  
Nov 26 14:40:01 : showeventreporting  
Nov 26 15:06:00 : showfault  
Nov 26 15:53:05 : shownetwork  
Nov 26 16:15:32 : help setlocator  
Nov 26 16:17:32 : history
```

inventory

FRU の SEEPROM の内容を表示します。

構文

```
inventory  
inventory [<board>]  
inventory -h
```

オプション/パラメタ

<board> には、FRU の名前を指定します。

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

FRU の SEEPROM の内容を表示します。

例

すべての FRU の SEEPROM を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom>inventory
```

```
lom>inventory PS1  
/N0/PS1: PS: 300-1523-01-02 serial# E00254 "Power Supply (A166,V1280)"  
    Made on Fri Nov 30 11:47:41 PST 2001 by 03ad at DELTAELECTRONICS CHUNGLI  
TAIWAN  
    Powered on for 87 days 12 hours 1 minute
```

logout

接続からログアウトします。

構文

```
logout  
logout -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

システムコンソールまたは LOM プロンプトに論理的に接続できるのは、一度に 1 人のユーザーだけです。システムコントローラのネットワークポートを介して接続を確立する場合は、まず、シリアルポート接続からログアウトして接続を使用可能にする必要があります。ネットワークポートにログインしている場合にシリアルポートに接続するときも、同じようにログアウトしてから接続します。

注 - シリアルポートからログアウトしたあとでシリアルポートで文字を入力すると、再接続が試行されたと解釈されます。

例

```
lom>logout
```

password

LOM のパスワードを設定します。

構文

```
password  
password -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

共用する LOM/コンソールポートへの接続の確立や、パスワードで保護するその他の処理に対して、パスワードを設定します。パスワードの変更が許可される前に、現在のパスワードの認証が行われます。変更されたパスワードは、即時に有効になります。それ以降は、古いパスワードは受け入れられません。

Enter new password および Enter new password again のプロンプトで Return キーを押すと、パスワードを削除できます。

パスワードを忘れた場合は、ご購入先にお問い合わせください。

関連項目

setupsc、reset、break、『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』

例

LOM シェルで password コマンドを入力すると、次のように表示されます。

コード例 4 password コマンド

```
lom>password  
Enter current password:  
Enter new password:  
Enter new password again:  
lom>
```

poweroff

システム全体、あるいは1つまたは一連の FRU の電源を強制的に切って、スタンバイ状態にします。

構文

```
poweroff  
poweroff [-y|-n]  
poweroff [-y|-n] <fru_name> [<fru_name>...]  
poweroff -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-y を指定すると、すべての質問に **yes** と応答します。このオプションは、危険を伴います。-y オプションを指定すると、コンポーネントの電源を強制的に切ることができます。

-n を指定すると、すべての質問に **no** と応答します。-n オプションを指定すると、コンポーネントの電源を強制的に切ることはできません。

<fru_name> には、個々の FRU の名前を指定します。

説明

poweroff <fru_name> では、1つまたは一連の FRU の電源が切断されます。指定できる FRU は、次のとおりです。

- 電源装置 (psx)
- システムボード (sbx、ibx、rpx)
- ファントレイ (ft0)

引数を明示的に指定せずに poweroff コマンドを使用すると、FRU の電源が切断される前に Solaris システムが終了します。各ボードの電源の状態は、showboards コマンドの出力に表示されます。

注 – 通常の状態では、shutdown コマンドを使用してください。

関連項目

poweron、shutdown

例

CPU/メモリーボード sb2 の電源を切る場合は、次のように入力します。

```
lom>poweroff sb2
```

システム全体を終了して電源を切る場合は、次のように入力します。

```
lom>poweroff
```

poweron

システム全体、あるいは1つまたは一連の FRU の電源を入れます。

構文

```
poweron  
poweron [all|<fru_name> [<fru_name>...]]  
poweron -h
```

オプション/パラメタ

-y を指定すると、確認のプロンプトが表示されません。

-n を指定すると、確認が必要な場合にはコマンドが実行されません。

<fru_name> を指定すると、1つまたは一連の FRU の電源が投入されます。

all を指定すると、すべての FRU の電源が投入されますが Solaris は起動されません。

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

スタンバイ状態からシステムに電源を投入して Solaris を起動する場合は、通常、引数を指定せずに poweron コマンドを実行します。

poweron <fru_name> では、1つまたは一連の FRU の電源が投入されます。指定できる FRU は、次のとおりです。

- 電源装置 (psx)
- システムボード (sbx、ibx、rpx)
- ファントレイ (ft0)

`poweron all` を使用すると、Solaris を起動せずにすべての FRU の電源が投入されます。各ボードの電源の状態は、`showboards` コマンドの出力に表示されます。

関連項目

`shutdown`、`showboards`、`poweroff`

例

システム全体の電源を入れて起動する場合は、次のように入力します。

```
lom>poweron
```

CPU/メモリーボード `sb2` の電源を入れる場合は、次のように入力します。

```
lom>poweron sb2
```

reset

Solaris システムをリセットします。

構文

```
reset [-x|-a] [-y|-n]  
reset -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-y を指定すると、確認のプロンプトが表示されません。

-n を指定すると、確認が必要な場合にはコマンドが実行されません。

-x を指定すると、外部強制リセット (XIR : eXternally Initiated Reset) を介して reset のデフォルトの動作が強制的に実行されます。

-a を指定すると、すべてのハードウェアがリセットされます。XIR のデータ収集はスキップされ、デバッグに使用できるデータが失われます。

オプションを指定せずに reset コマンドを入力した場合は、reset -x と同じ処理が行われます。

説明

Solaris システムをリセットします。システムがセキュリティー保護モードであるか、電源が切断されスタンバイモードになっている場合、リセットは許可されません。リセットが完了すると、Solaris システムが再開されます。

デフォルトでは、reset を実行すると、XIR を使用して Solaris システムの CPU プロセッサがリセットされます。XIR によって、Solaris システムの制御が強制的に OpenBoot PROM に移り、OpenBoot PROM のエラーリセット回復処理が開始されます。エラーリセット回復処理では、Solaris オペレーティング環境のコアファイルなどの、ハードウェアおよびソフトウェアのデバッグに必要なデータを収集できるように、ほとんどの Solaris システムの状態が保持されます。OpenBoot PROM のエラーリセット回復処理は、OpenBoot PROM の構成変数 error-reset-recovery の設定によって制御できます。

reset コマンドを入力して、そのあとも Solaris システムがハードハングしたままになっている (Solaris オペレーティング環境にログインできず、また break コマンドを入力しても Solaris システムの制御を OpenBoot PROM の ok プロンプトに強制的に戻すことができない) 場合は、次に reset -a を入力してすべてをリセットする必要があります。

reset -a コマンドは、OpenBoot PROM の reset-all コマンドと同じ処理を実行します。

関連項目

setupsc、『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』(Solaris システムをハングアップまたはハードハングから回復する手順)

例

Solaris システムをリセットする場合は、次のように入力します。

```
lom>reset
```

すべてをリセットする場合は、次のように入力します (XIR のデータ収集はスキップされ、デバッグに使用できるデータが失われます)。

```
lom>reset -a
```

注 – ハードハングした Solaris システムに対し、reset (オプションの指定なし) コマンドの実行が失敗した場合は、reset -a を入力してください。

resetsc

システムコントローラをリセットします。

構文

```
resetsc [-y|-n]  
resetsc -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-y を指定すると、確認のプロンプトが表示されません。

-n を指定すると、確認が必要な場合にはコマンドが実行されません。

説明

システムコントローラをリセットします。システムコントローラのログ履歴は失われます。

注 – 起動や停止など、システム全体に関する操作が実行されている間は、このコマンドを使用しないでください。

関連項目

flashupdate

例

コード例 5 システムコントローラをリセットするための resetsc コマンド

```
lom>resetsc -y  
Are you sure you want to reboot the system controller now? yes (-y)  
Waiting for critical processes to finish. This may take a while.  
Critical processes have finished.  
  
Rebooting. All telnet connections closed. Reestablish any needed connections.  
Fri Jul 26 15:15:45 commando-sc lom: Stopping all services on this SC  
Fri Jul 26 15:15:45 commando-sc lom: All services on this SC have been stopped.  
  
Software Reset...
```

コード例 5

システムコントローラをリセットするための resetsc コマンド (続き)

```
@(#) SYSTEM CONTROLLER(SC) POST 23 2002/03/22 18:03
PSR = 0x044010e5
PCR = 0x04004000

Basic sanity checks done.
Skipping POST ...
ERI Device Present
Getting MAC address for SSC1
Using SCC MAC address
MAC address is 0:3:xx:xx:xx:xx
Hostname: commando-sc
Address: 129.xxx.xxx.xxx
Netmask: 255.255.255.0
Attached TCP/IP interface to eri unit 0
Attaching interface lo0...done
Gateway: 129.xxx.xxx.xxx
interrupt: 100 Mbps half duplex link up

                Copyright 2001-2002 Sun Microsystems, Inc.  All rights reserved.
                Use is subject to license terms.

Lights Out Management Firmware
RTOS version: 23
ScApp version: 5.13.0007 LW8_build0.7
SC POST diag level: off

The date is Friday, July 26, 2002, 3:16:14 PM BST.

Fri Jul 26 15:16:15 commando-sc lom: Boot: ScApp 5.13.0007, RTOS 23
Fri Jul 26 15:16:22 commando-sc lom: Caching ID information
Fri Jul 26 15:16:23 commando-sc lom: Clock Source: 75MHz
Fri Jul 26 15:16:26 commando-sc lom: /N0/PS0: Status is OK
Fri Jul 26 15:16:26 commando-sc lom: /N0/PS1: Status is OK
Fri Jul 26 15:16:26 commando-sc lom: Chassis is in single partition mode.

Connected.
```

setalarm

システムアラームリレーおよび関連する LED を設定します。

構文

```
setalarm 1|2 on|off  
setalarm -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

1 は、アラーム番号 1 を指します。

2 は、アラーム番号 2 を指します。

on を指定すると、指定されたアラームリレーをオンにして LED が点灯します。

off を指定すると、指定されたアラームリレーをオフにして LED が消灯します。

説明

システムアラームリレーおよび関連する LED を設定します。

関連項目

showalarm

例

```
lom>setalarm 1 on
```

```
lom>setalarm 2 off
```

setdate

システムの日付および時刻を設定します。

構文

```
setdate [-v] [-t <time zone>] [<mmdd>]<HHMM>  
setdate [-v] [-t <time zone>] <mmddHHMM>[[<cc>]<yy>]][.<SS>]  
setdate [-v] -r <datehost>  
setdate [-v] -t GMT<+|-><offset from GMT>  
setdate -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-v を指定すると、冗長モードになります。

-t <time zone> を指定すると、タイムゾーンの簡略表現を使用してタイムゾーンが設定されます。

-t GMT<+|-><offset from GMT> を指定すると、グリニッジ標準時 (GMT) に指定したオフセットを加えた時間が設定されます。

<mm> = 月
<dd> = 日付
<HH> = 時 (24 時間式)
<mm> = 分
<cc> = 西暦の最初の 2 桁
<yy> = 西暦の下 2 桁
<SS> = 秒

-r <datehost> を指定すると、日付ホスト(*datehost*) の現在の値に基づいた日付が設定されます。日付ホストは、有効なシステムである必要があります。

注 - すべてのタイムゾーンを一覧表示するには、`showdate -t -v` を入力します。

説明

日付および時刻を設定します。

注 - タイムゾーン地域で夏時間が使用されている場合は、自動的に設定されます。

注 - Solaris が動作している場合は、Solaris の `date(1)` コマンドを使用します。

関連項目

showdate

例

日付および時間を 2000 年 4 月 20 日木曜日、18 時 15 分 10 秒に設定する場合は、次のように入力します。

```
lom>setdate 042018152000.10
```

日付ホストシステムから日付を設定する場合は、次のように入力します。

```
lom>setdate -r hostname  
Mon Apr 03 09:30:58 PST 2000
```

日付および時刻を 2000 年 4 月 20 日木曜日、18 時 15 分 10 秒に設定し、タイムゾーンの簡略表現を使用してタイムゾーンを米国東部標準時 (EST) に設定する場合は、次のように入力します。

```
lom>setdate -t EST 042018152000.10
```

タイムゾーンをイギリスに設定する場合は、次のように入力します。

```
lom>setdate -t Europe/London
```

タイムゾーンの簡略表現を使用してタイムゾーンをヨーロッパ中央時間に設定し、日付および時刻を設定しない場合は、次のように入力します。

```
lom>setdate -t ECT
```

setescape

Solaris または OpenBoot PROM コンソールから LOM プロンプトへ移行するために使用する文字シーケンスを設定します。

構文

```
setescape <escapechars>  
setescape -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

<escapechars> には、エスケープシーケンスとして最大 5 文字の英数字を指定できます。LOM が最初に起動されたときのデフォルトのシーケンスは、「#.」（ハッシュ記号とピリオド）です。

説明

Solaris または OBP コンソールから LOM プロンプトへ移行するために使用する文字シーケンスを設定します。

コンソールからエスケープシーケンスの先頭文字 (デフォルトでは #) を入力すると、画面にその文字が表示されるまでに 1 秒の遅延があります。これは、エスケープシーケンスの次の文字が入力されるかどうかを確認するために、システムが 1 秒間待ち状態になるためです。次の文字が入力されると、システムはさらにその次の文字が入力されるまで 1 秒の待ち状態になります。エスケープシーケンスのすべての文字が入力されると、lom> プロンプトが表示されます。エスケープシーケンスのすべての文字が入力されなかった場合は、それまでに入力されたエスケープシーケンスに属する文字が画面に出力されます。

コンソールで頻繁に使用される文字で始まるエスケープシーケンスを選択しないでください。このような文字を選択すると、キーを押してから文字が表示されるまでの遅延によって混乱が生じ、文字の入力に影響する場合があります。

関連項目

showescape

例

エスケープ文字を「#.」に設定する場合は、次のように入力します。

```
lom>setescape "#."
```

注 - # が LOM コマンドシェルのコメント用の文字であるため、このシーケンスは引用符で囲む必要があります。

エスケープ文字を「~~~..」に設定する場合は、次のように入力します。

```
lom>setescape ~~~..
```

seteventreporting

LOM プロンプトに出力されるメッセージおよび Solaris に送信されるログメッセージのレベルを制御します。

構文

```
seteventreporting on [0|1|2|3|4]
seteventreporting off [0|1|2|3|4]
seteventreporting default [0|1|2|3|4]
seteventreporting -h
```

オプション/パラメタ

default を指定すると、Solaris が動作していないときに限り、LOM ソフトウェアは lom> プロンプトにメッセージを出力します。Solaris ソフトウェアは、システムログデーモン syslogd の構成ファイル /etc/syslog.conf での設定に従って、LOM からのメッセージを出力します。

on を指定すると、現在設定されているレポートレベル以下のメッセージがすべて lom> プロンプトに表示されます。

off を指定すると、lom> プロンプトにメッセージは報告されません。現在設定されているレポートレベル以下のメッセージは、継続して Solaris へ送信されます。

レポートレベルは、次のとおりです。

- 0 メッセージは報告されません。
- 1 致命的なメッセージだけが報告されます。
- 2 致命的、警告のメッセージが報告されます。
- 3 致命的、警告、通知のメッセージが報告されます。
- 4 現在、このレベルのメッセージはありません (レベル 3 と同じ結果になります)。

レベルを指定しない場合、デフォルトのレポートレベルは 3 です。

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

seteventreporting コマンドは、LOM プロンプトに出力されるメッセージおよび Solaris に送信されるログメッセージのレベルを制御します。レポートレベルは、動作中の Solaris が受信するメッセージ、または Solaris が次に起動したときに取得するメッセージのレベルを制御します。このコマンドでの設定にかかわらず、すべてのメッセージは、システムコントローラの内部ログに送信されます。このログは、showlogs コマンドを使用して表示できます。

関連項目

showeventreporting

例

LOM プロンプトへのイベントの報告を停止する場合は、次のように入力します。

```
lom>seteventreporting off
```

LOM プロンプトでのメッセージ処理をデフォルトに設定する場合は、次のように入力します。

```
lom>seteventreporting default
```

致命的メッセージおよび警告メッセージをすべてLOM プロンプトに報告するように設定する場合は、次のように入力します。

```
lom>seteventreporting on 2
```

setlocator

システムロケータ LED の状態を設定します。

構文

```
setlocator on|off  
setlocator -h
```

オプション/パラメタ

on を指定すると、システムロケータ LED が点灯します。

off を指定すると、システムロケータ LED が消灯します。

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

システムロケータ LED の状態を設定します。

関連項目

showlocator

例

システムロケータ LED を消灯する場合は、次のように入力します。

```
lom>setlocator off
```

システムロケータ LED を点灯する場合は、次のように入力します。

```
lom>setlocator on
```

setupnetwork

システムコントローラのネットワーク属性を設定します。

構文

```
setupnetwork  
setupnetwork -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

このコマンドを使用してシステムコントローラネットワークの詳細情報を設定すると、ネットワーク接続を介してシステムコントローラにアクセスできるようになります。これらの属性を設定したら、システムコントローラをリセットして、設定を有効にしてください。

関連項目

表 6 setupnetwork の属性

パラメタ	値
Is the system controller on a network?	ネットワーク接続を介してシステムコントローラにアクセスする場合は、このオプションを yes に設定する必要があります。
Use DHCP or static network settings?	static - システムコントローラの電源を入れたときのネットワーク IP およびホスト名は毎回同じになります。 DHCP - DHCP と呼ばれるネットワークサービスを使用して、ホスト名および IP アドレスが自動的に取得されます。
Hostname	システムコントローラの人間にとってわかりやすいネットワーク識別情報。
IP Address	システムコントローラが使用する IP アドレス。
Netmask	ネットワークをサブネットワークに分割するために予約するアドレスの数を指定します。マスクには、ローカルアドレスのネットワーク部とサブネット部が含まれます。 マスクのサブネット部のビット位置には 1、ホスト部のビット位置には 0 を設定します。
Gateway	ゲートウェイの IP アドレス。

表 6 setupnetwork の属性 (続き)

パラメタ	値
DNS Domain	ドメイン名 (例 : xxx.xxx.com) デフォルト値はありません。この情報は、必ず指定する必要があります。
Primary DNS Server	プライマリ DNS サーバーの IP アドレス。 デフォルト値はありません。
Secondary DNS Server	セカンダリ DNS サーバーの IP アドレス。 デフォルト値はありません。プライマリ DNS サーバーが動作していない場合、セカンダリ DNS サーバーが自動的に処理を引き継ぎます。

関連項目

shownetwork、resetsc

例

```
lom>setupnetwork

Network Configuration
-----
Is the system controller on a network? [no]: yes
Use DHCP or static network settings? [DHCP]: static
Hostname []: somename
IP Address []: 129.xxx.xxx.xxx
Netmask [255.255.255.0]: 255.255.255.0
Gateway []: 129.xxx.xxx.xxx
DNS Domain []: somewhere.nowhere.com
Primary DNS Server []: 129.xxx.xxx.xxx
Secondary DNS Server []: 129.xxx.xxx.xxx

Rebooting the SC is required for changes in network settings to take effect.
lom>
```

setupsc

システムコントローラのオプションの機能を設定します。

構文

```
setupsc  
setupsc -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

setupsc コマンドを使用すると、システムコントローラのいくつかのオプション機能を設定できます。

■ SC POST 診断レベル:

システムコントローラがリセットまたは電源が投入されたときに実行される電源投入時自己診断の診断レベルを制御します。

- off を指定すると、SC POST は実行されません。
- min を指定すると、最低レベルの SC POST が実行されます (デフォルト)。
- max を指定すると、最高レベルの SC POST が実行されます。

■ ホストウォッチドッグ:

Solaris ウォッチドッグがタイムアウトしたときに、システムのリセットを有効にするか無効にするかを設定します。

■ ロッカースイッチ:

正面パネルのオン/スタンバイロッカースイッチを使用可能または使用不可に設定します。

■ セキュリティー保護モード:

reset および break コマンドを使用可能または使用不可に設定します。セキュリティー保護モードが有効に設定されている場合は、reset および break コマンドは使用できません。システムコントローラのパスワードが設定されている場合は、セキュリティー保護モードの設定を変更すると、パスワードを確認するためのプロンプトが表示されます。

関連項目

break、reset、password

例

現在の設定を表示する場合は、各フィールドのプロンプトでキャリッジリターンを入力します。

```
lom>setupsc
System Controller Configuration
-----
SC POST diag Level [off]:
Host Watchdog [enabled]:
Rocker Switch [enabled]:
Secure Mode [off]:

lom>
```

セキュリティー保護モードの設定を変更する場合は、パスワードを入力する必要があります。

```
lom>setupsc
System Controller Configuration
-----
SC POST diag Level [off]: min
Host Watchdog [enabled]:
Rocker Switch [enabled]: disabled
Secure Mode [off]: on
Enter Password:

lom>
```

セキュリティー保護モードが有効に設定されている場合、`break` コマンドは使用できません。

```
lom>break
The break command has been disabled using the Secure Mode
option of the setupsc command.
```

セキュリティー保護モードが有効に設定されている場合、`reset` コマンドは使用できません。

```
lom>reset  
The reset command has been disabled using the Secure Mode  
option of the setupsc command.
```

showalarm

システムアラームリレーおよび LED の状態を表示します。

構文

```
showalarm 1|2|system  
showalarm -h
```

オプション/パラメタ

1 を指定すると、アラーム 1 の LED およびリレーの状態が表示されます。

2 を指定すると、アラーム 2 の LED およびリレーの状態が表示されます。

`system` を指定すると、UNIX が動作しているシステムのアラームリレーおよび LED の状態が表示されます。

`-h` を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

システムアラームリレーおよび LED の状態を表示します。

関連項目

`setalarm`

例

UNIX が動作しているシステムのアラームの状態を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom>showalarm system  
system alarm is on
```

アラーム 1 の状態を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom>showalarm 1
alarm1 is off
```

アラーム 2 の状態を表示する場合は、次のように入力します。

```
lom>showalarm 2
alarm2 is off
```

showboards

システムのすべてのボードの状態を表示します。

構文

```
showboards [-ev] [-p <part>] ...
showboards -h
```

オプション/パラメタ

-e を指定すると、空きスロットの情報も表示されます

-p を指定すると、特定の情報が表示されます。<part> に指定できる値は、次のとおりです。

board	ボードの状態が表示されます。
cpu	CPU に関する情報が表示されます。
io	入出力に関する情報が表示されます。
memory	メモリーに関する情報が表示されます。
serial	シリアル番号に関する情報が表示されます。
version	バージョン情報が表示されます。

-v を指定すると、すべての情報が表示されます。

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

システム上のすべてのボード (CPU/メモリーボード、I/O アセンブリ、ファントレイなど) の状態を表示します。

例

次に、showboards コマンドの出力例を示します (showboards -p board と同じ結果になります)。

コード例 6 showboards コマンド

```
lom>showboards
Slot      Pwr Component Type          State      Status
----      -
SSC1      On  System Controller        Main       Passed
/N0/SCC   -   System Config Card       Assigned   OK
/N0/BP    -   Baseplane                 Assigned   OK
/N0/SIB   -   Indicator Board          Assigned   OK
/N0/SPDB  -   System Power Distribution Bd. Assigned   Passed
/N0/PS0   On  A166 Power Supply         -          OK
/N0/PS1   On  A166 Power Supply         -          OK
/N0/FT0   On  Fan Tray                  Auto Speed OK
/N0/RP0   On  Repeater Board           Assigned   OK
/N0/RP2   On  Repeater Board           Assigned   OK
/N0/SB0   On  CPU Board                Active     Passed
/N0/IB6   On  PCI I/O Board            Active     Passed
/N0/MB    -   Media Bay                Assigned   OK
```

次に、showboards -e コマンドの出力例を示します。

コード例 7 showboards -e コマンド

```
lom>showboards -e
Slot      Pwr Component Type          State      Status
----      -
SSC1      On  System Controller        Main       Passed
/N0/SCC   -   System Config Card       Assigned   OK
/N0/BP    -   Baseplane                 Assigned   Passed
/N0/SIB   -   Indicator Board          Assigned   OK
/N0/SPDB  -   System Power Distribution Bd. Assigned   Passed
/N0/PS0   On  A166 Power Supply         -          OK
/N0/PS1   On  A166 Power Supply         -          OK
PS2       -   Empty Slot               Assigned   -
PS3       -   Empty Slot               Assigned   -
/N0/FT0   On  Fan Tray                  Auto Speed Passed
/N0/RP0   On  Repeater Board           Assigned   OK
/N0/RP2   On  Repeater Board           Assigned   OK
/N0/SB0   On  CPU Board                Active     Passed
/N0/SB2   On  CPU Board                Active     Passed
SB4       -   Empty Slot               Assigned   -
/N0/IB6   On  PCI I/O Board            Active     Passed
/N0/MB    -   Media Bay                Assigned   OK
```

次に、showboards -v コマンドの出力例を示します。

コード例 8 showboards -v コマンド

```
lom>showboards -v
```

Slot	Pwr	Component	Type	State	Status
----	---	-----		-----	-----
SSC1	On	System Controller		Main	Passed
/N0/SCC	-	System Config Card		Assigned	OK
/N0/BP	-	Baseplane		Assigned	Passed
/N0/SIB	-	Indicator Board		Assigned	OK
/N0/SPDB	-	System Power Distribution Bd.		Assigned	Passed
/N0/PS0	On	A166 Power Supply		-	OK
/N0/PS1	On	A166 Power Supply		-	OK
PS2	-	Empty Slot		Assigned	-
PS3	-	Empty Slot		Assigned	-
/N0/FT0	On	Fan Tray		Auto Speed	Passed
/N0/RP0	On	Repeater Board		Assigned	OK
/N0/RP2	On	Repeater Board		Assigned	OK
/N0/SB0	On	CPU Board		Active	Passed
/N0/SB2	On	CPU Board		Active	Passed
SB4	-	Empty Slot		Assigned	-
/N0/IB6	On	PCI I/O Board		Active	Passed
/N0/MB	-	Media Bay		Assigned	OK

Component	J-No.	Size	Reason
-----	-----	----	-----
/N0/SB0/P0/B0/D0	J13300	512 MB	
/N0/SB0/P0/B0/D1	J13400	512 MB	
/N0/SB0/P0/B0/D2	J13500	512 MB	
/N0/SB0/P0/B0/D3	J13600	512 MB	
/N0/SB0/P0/B1	-	-	DRAM DIMM Group 1 Empty
/N0/SB0/P1/B0/D0	J14300	512 MB	
/N0/SB0/P1/B0/D1	J14400	512 MB	
/N0/SB0/P1/B0/D2	J14500	512 MB	
/N0/SB0/P1/B0/D3	J14600	512 MB	
/N0/SB0/P1/B1	-	-	DRAM DIMM Group 1 Empty
/N0/SB0/P2/B0/D0	J15300	512 MB	
/N0/SB0/P2/B0/D1	J15400	512 MB	
/N0/SB0/P2/B0/D2	J15500	512 MB	
/N0/SB0/P2/B0/D3	J15600	512 MB	
/N0/SB0/P2/B1	-	-	DRAM DIMM Group 1 Empty
/N0/SB0/P3/B0/D0	J16300	512 MB	
/N0/SB0/P3/B0/D1	J16400	512 MB	
/N0/SB0/P3/B0/D2	J16500	512 MB	
/N0/SB0/P3/B0/D3	J16600	512 MB	

コード例 8 showboards -v コマンド (続き)

```

/N0/SB0/P3/B1      -      -      DRAM DIMM Group 1 Empty
/N0/SB2/P0/B0      -      -      DRAM DIMM Group 0 Empty
/N0/SB2/P0/B1/D0   J13301 512 MB
/N0/SB2/P0/B1/D1   J13401 512 MB
/N0/SB2/P0/B1/D2   J13501 512 MB
/N0/SB2/P0/B1/D3   J13601 512 MB
/N0/SB2/P1/B0      -      -      DRAM DIMM Group 0 Empty
/N0/SB2/P1/B1/D0   J14301 512 MB
/N0/SB2/P1/B1/D1   J14401 512 MB
/N0/SB2/P1/B1/D2   J14501 512 MB
/N0/SB2/P1/B1/D3   J14601 512 MB
/N0/SB2/P2/B0      -      -      DRAM DIMM Group 0 Empty
/N0/SB2/P2/B1/D0   J15301 512 MB
/N0/SB2/P2/B1/D1   J15401 512 MB
/N0/SB2/P2/B1/D2   J15501 512 MB
/N0/SB2/P2/B1/D3   J15601 512 MB
/N0/SB2/P3/B0      -      -      DRAM DIMM Group 0 Empty
/N0/SB2/P3/B1/D0   J16301 512 MB
/N0/SB2/P3/B1/D1   J16401 512 MB
/N0/SB2/P3/B1/D2   J16501 512 MB
/N0/SB2/P3/B1/D3   J16601 512 MB

Component      Segment Compatible In Date      Time      Build Version
-----
SSC1/FP0      -      -      -      -      -      -      RTOS version:
23
SSC1/FP1      ScApp  Reference 12 05/17/2002 11:15 43.0 5.13.5
SSC1/FP1      Ver    -      -      05/17/2002 11:15 43.0 5.13.5
LW8_build0.5
/N0/IB6/FP0   iPOST  Yes      12 05/17/2002 11:14 43.0 5.13.5
/N0/IB6/FP0   Ver    -      -      05/17/2002 11:15 43.0 5.13.5
LW8_build0.5
/N0/SB0/FP0   POST   Yes      12 05/17/2002 11:08 43.0 5.13.5
/N0/SB0/FP0   OBP    Yes      12 05/17/2002 11:08 43.0 5.13.5
/N0/SB0/FP0   Ver    -      -      05/17/2002 11:10 43.0 5.13.5
LW8_build0.5
/N0/SB0/FP1   POST   Yes      12 05/17/2002 11:08 43.0 5.13.5
/N0/SB0/FP1   OBP    Yes      12 05/17/2002 11:08 43.0 5.13.5
/N0/SB0/FP1   Ver    -      -      05/17/2002 11:10 43.0 5.13.5
LW8_build0.5
/N0/SB2/FP0   POST   Yes      12 05/17/2002 11:08 43.0 5.13.5
/N0/SB2/FP0   OBP    Yes      12 05/17/2002 11:08 43.0 5.13.5
/N0/SB2/FP0   Ver    -      -      05/17/2002 11:10 43.0 5.13.5
LW8_build0.5
/N0/SB2/FP1   POST   Yes      12 05/17/2002 11:08 43.0 5.13.5
/N0/SB2/FP1   OBP    Yes      12 05/17/2002 11:08 43.0 5.13.5

```

コード例 8 showboards -v コマンド (続き)

```
/N0/SB2/FP1 Ver      -          - 05/17/2002 11:10 43.0  5.13.5
LW8_build0.5
```

Slot	Populated	Slot	Description
----	-----	-----	-----
/N0/IB6/P0/B1/C0	Empty	33MHz. 5V Short	PCI card
/N0/IB6/P0/B1/C1	Empty	33MHz. 5V Short	PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C2	Empty	33MHz. 5V Short	PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C3	Empty	33MHz. 5V Short	PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C4	Empty	33MHz. 5V Short	PCI card
/N0/IB6/P0/B0/C5	Empty	66/33MHz. 3.3V Short	PCI card

Component	Part #	Serial #	Description
-----	-----	-----	-----
/N0/SB0	501-4362-08-50	013362	CPU Board
/N0/SB2	501-4362-08-50	014812	CPU Board
/N0/SB0/P0/B0/D0	501-5030-02-50	428079	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D1	501-5030-02-50	428080	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D2	501-5030-02-50	428081	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D3	501-5030-02-50	428082	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D0	501-5030-02-01	010398	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D1	501-5030-02-01	010486	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D2	501-5030-02-01	010400	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D3	501-5030-02-01	010392	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D0	501-5030-02-50	072411	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D1	501-5030-02-50	428072	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D2	501-5030-02-50	428073	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D3	501-5030-02-50	428074	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D0	501-5030-02-50	428075	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D1	501-5030-02-50	428076	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D2	501-5030-02-50	428077	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D3	501-5030-02-50	428078	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D0	501-5030-02-50	072392	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D1	501-5030-02-50	072403	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D2	501-5030-02-50	072399	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D3	501-5030-02-50	072396	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D0	501-5030-02-50	072388	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D1	501-5030-02-50	072273	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D2	501-5030-02-50	072398	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D3	501-5030-02-50	072394	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D0	501-5030-02-50	072395	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D1	501-5030-02-50	072393	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D2	501-5030-02-50	072406	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D3	501-5030-02-50	072410	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D0	501-5030-02-50	072402	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D1	501-5030-02-50	072404	512 MB NG SDRAM DIMM

コード例 8 showboards -v コマンド (続き)

/N0/SB2/P3/B1/D2	501-5030-02-50	072400	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D3	501-5030-02-50	072397	512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/E0	370-4125-01-01	498D2H	4MB Ecache Module
/N0/SB0/P0/E1	370-4125-01-01	498BUW	4MB Ecache Module
/N0/SB0/P1/E0	370-4125-01-01	498BD0	4MB Ecache Module
/N0/SB0/P1/E1	370-4125-01-01	498D1D	4MB Ecache Module
/N0/SB0/P2/E0	370-4125-01-01	498BTV	4MB Ecache Module
/N0/SB0/P2/E1	370-4125-01-01	498BKY	4MB Ecache Module
/N0/SB0/P3/E0	370-4125-01-01	498AYK	4MB Ecache Module
/N0/SB0/P3/E1	370-4125-01-01	498BU6	4MB Ecache Module
/N0/SB2/P0/E0	370-4125-01-01	4950NH	4MB Ecache Module
/N0/SB2/P0/E1	370-4125-01-01	4951EZ	4MB Ecache Module
/N0/SB2/P1/E0	370-4125-01-01	494XTW	4MB Ecache Module
/N0/SB2/P1/E1	370-4125-01-01	495581	4MB Ecache Module
/N0/SB2/P2/E0	370-4125-01-01	4951NN	4MB Ecache Module
/N0/SB2/P2/E1	370-4125-01-01	4951AV	4MB Ecache Module
/N0/SB2/P3/E0	370-4125-01-01	4951DK	4MB Ecache Module
/N0/SB2/P3/E1	370-4125-01-01	4950P0	4MB Ecache Module
/N0/IB6	000-0000-01-01	6543	PCI I/O Board

Component	Cpu Mask	Description
-----	-----	-----
/N0/SB0/P0	3.4	UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECACHE
/N0/SB0/P1	3.4	UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECACHE
/N0/SB0/P2	3.4	UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECACHE
/N0/SB0/P3	3.4	UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECACHE
/N0/SB2/P0	3.4	UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECACHE
/N0/SB2/P1	3.4	UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECACHE
/N0/SB2/P2	3.4	UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECACHE
/N0/SB2/P3	3.4	UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECACHE

次に、showboards -p memory コマンドの出力例を示します。

コード例 9 showboards -p memory コマンド

```
lom>showboards -p memory
```

Component	Size	Reason
-----	----	-----
/N0/SB0	8192 MB	
/N0/SB2	8192 MB	

次に、showboards -p version コマンドの出力例を示します。

コード例 10 showboards -p version コマンド

```
lom>showboards -p version
Component      Compatible Version
-----
SSC1           Reference 5.13.5 LW8_build0.5
/N0/IB6        Yes       5.13.5 LW8_build0.5
/N0/SB0        Yes       5.13.5 LW8_build0.5
/N0/SB2        Yes       5.13.5 LW8_build0.5
```

次に、showboards -p io コマンドの出力例を示します。

コード例 11 showboards -p io コマンド

```
lom>showboards -p io
Slot           Populated Slot Description
-----
/N0/IB6/P0/B1/C0 Empty        33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B1/C1 Empty        33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C2 Empty        33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C3 Empty        33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/C4 Empty        33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B0/C5 Empty        66/33MHz. 3.3V Short PCI card
```

次に、showboards -p serial コマンドの出力例を示します。

コード例 12 showboards -p serial コマンド

```
lom>showboards -p serial
Component      Part #      Serial #  Description
-----
/N0/SB0        501-4362-08-50 013362   CPU Board
/N0/SB2        501-4362-08-50 014812   CPU Board
/N0/SB0/P0/B0/D0 501-5030-02-50 428079   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D1 501-5030-02-50 428080   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D2 501-5030-02-50 428081   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P0/B0/D3 501-5030-02-50 428082   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D0 501-5030-02-01 010398   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D1 501-5030-02-01 010486   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D2 501-5030-02-01 010400   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P1/B0/D3 501-5030-02-01 010392   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D0 501-5030-02-50 072411   512 MB NG SDRAM DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D1 501-5030-02-50 428072   512 MB NG SDRAM DIMM
```

コード例 12 showboards -p serial コマンド (続き)

/N0/SB0/P2/B0/D2	501-5030-02-50	428073	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P2/B0/D3	501-5030-02-50	428074	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D0	501-5030-02-50	428075	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D1	501-5030-02-50	428076	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D2	501-5030-02-50	428077	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P3/B0/D3	501-5030-02-50	428078	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D0	501-5030-02-50	072392	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D1	501-5030-02-50	072403	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D2	501-5030-02-50	072399	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P0/B1/D3	501-5030-02-50	072396	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D0	501-5030-02-50	072388	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D1	501-5030-02-50	072273	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D2	501-5030-02-50	072398	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P1/B1/D3	501-5030-02-50	072394	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D0	501-5030-02-50	072395	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D1	501-5030-02-50	072393	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D2	501-5030-02-50	072406	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P2/B1/D3	501-5030-02-50	072410	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D0	501-5030-02-50	072402	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D1	501-5030-02-50	072404	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D2	501-5030-02-50	072400	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB2/P3/B1/D3	501-5030-02-50	072397	512	MB	NG	SDRAM	DIMM
/N0/SB0/P0/E0	370-4125-01-01	498D2H	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB0/P0/E1	370-4125-01-01	498BUW	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB0/P1/E0	370-4125-01-01	498BD0	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB0/P1/E1	370-4125-01-01	498D1D	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB0/P2/E0	370-4125-01-01	498BTV	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB0/P2/E1	370-4125-01-01	498BKY	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB0/P3/E0	370-4125-01-01	498AYK	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB0/P3/E1	370-4125-01-01	498BU6	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB2/P0/E0	370-4125-01-01	4950NH	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB2/P0/E1	370-4125-01-01	4951EZ	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB2/P1/E0	370-4125-01-01	494XTW	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB2/P1/E1	370-4125-01-01	495581	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB2/P2/E0	370-4125-01-01	4951NN	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB2/P2/E1	370-4125-01-01	4951AV	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB2/P3/E0	370-4125-01-01	4951DK	4MB	Ecache		Module	
/N0/SB2/P3/E1	370-4125-01-01	4950P0	4MB	Ecache		Module	
/N0/IB6	000-0000-01-01	6543		PCI		I/O Board	

次に、showboards -p cpu コマンドの出力例を示します。

コード例 13 showboards -p cpu コマンド

```
lom>showboards -p cpu
Component    Description
-----
/N0/SB0/P0    UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P1    UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P2    UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P3    UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECache
/N0/SB2/P0    UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECache
/N0/SB2/P1    UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECache
/N0/SB2/P2    UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECache
/N0/SB2/P3    UltraSPARC-III+, 900MHz, 8M ECache
```

表 7 showboards コマンドの出力ヘッダーの定義

ヘッダー	説明
Slot	スロット指示子。CPU/メモリーボードおよび I/O アセンブリのスロット指示子の前の N0 はノード番号で、必ず 0 になります。
Pwr	FRU の電源が入っているかどうかを示します。
Component type	各スロットに取り付けられているボードの説明を示します。
FRU status	FRU の状態を示します (表 2 参照)。
Test status	テストの状態を示します (表 3 参照)。

showcomponent

コンポーネントの一覧を表示します。

構文

```
showcomponent [-v] <component_name> [ <component_name> ... ]
showcomponent -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。<component_name> の構文も含まれます。

-v を指定すると、冗長モードになります。

<component_name> には、表 8 に示すボードの名前を指定します。

表 8 showcomponent コマンドの <component_name> の説明

コンポーネントの説明	<component_name> の値
CPU システム	<slot>
CPU/メモリーボード (slot)	sb0、sb2、sb4
CPU/メモリーボード上のポート	p0、p1、p2、p3
CPU/メモリーボード上の物理メモリーバンク	b0、b1
CPU/メモリーボード上の論理バンク	10、11、12、13
リピータシステム	<slot>
リピータボード	rp0、rp2
I/O アセンブリシステム	<slot>
I/O アセンブリ (slot)	ib6
I/O アセンブリ上のポート	p0、p1
I/O アセンブリ上のバス	b0、b1
I/O アセンブリ上の入出力カード	pci0、pci1、pci2、pci3、pci4、pci5

説明

コンポーネントの一覧を表示します。それぞれのコンポーネントの POST およびブラックリストの状態も表示されます。Status 列には、コンポーネントの現在のブラックリストの状態が表示されます。Pending 列には、コンポーネントに対して要求されているブラックリストの状態が表示されます。この要求は、次の再起動または動的再構成のあとで有効になります。POST 列には、最新の POST の結果が表示されます。

注 - システムがスタンバイモードのときに、リピータボードが `disablecomponent` コマンドを使用してブラックリストに登録された場合、または `enablecomponent` コマンドを使用してブラックリストから削除された場合、これらの変更はシステムに再び電源が投入されるまで `showcomponent` の出力には反映されません。

関連項目

`enablecomponent`、`disablecomponent`、『Sun Fire V1280/Netra 1280 システム管理マニュアル』(コンポーネントを表示する手順)

例

次に、`showcomponent sb0` の出力例を示します。

コード例 14 CPU/メモリーボードに対する `showcomponent` コマンド

```
lom>showcomponent sb0
Component          Status  Pending  POST  Description
-----
/N0/SB0/P0         enabled -        pass  UltraSPARC-III, 750MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P1         enabled -        pass  UltraSPARC-III, 750MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P2         enabled -        pass  UltraSPARC-III, 750MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P3         enabled -        pass  UltraSPARC-III, 750MHz, 8M ECache
/N0/SB0/P0/B0/L0   enabled -        pass  512M DRAM
/N0/SB0/P0/B0/L2   enabled -        pass  512M DRAM
/N0/SB0/P0/B1/L1   enabled -        untest empty
/N0/SB0/P0/B1/L3   enabled -        untest empty
/N0/SB0/P1/B0/L0   enabled -        pass  512M DRAM
/N0/SB0/P1/B0/L2   enabled -        pass  512M DRAM
/N0/SB0/P1/B1/L1   enabled -        untest empty
/N0/SB0/P1/B1/L3   enabled -        untest empty
/N0/SB0/P2/B0/L0   enabled -        pass  512M DRAM
/N0/SB0/P2/B0/L2   enabled -        pass  512M DRAM
/N0/SB0/P2/B1/L1   enabled -        untest empty
/N0/SB0/P2/B1/L3   enabled -        untest empty
/N0/SB0/P3/B0/L0   enabled -        pass  512M DRAM
/N0/SB0/P3/B0/L2   enabled -        pass  512M DRAM
/N0/SB0/P3/B1/L1   enabled -        untest empty
/N0/SB0/P3/B1/L3   enabled -        untest empty
```

次に、showcomponent ib6 コマンドの出力例を示します。

コード例 15 IB_SSC FRU の IB6 サブアセンブリに対する showcomponent コマンド

```
lom>showcomponent ib6
```

Component	Status	Pending	POST	Description
/N0/IB6/P0	enabled	-	pass	IO Controller 0
/N0/IB6/P1	enabled	-	pass	IO Controller 1
/N0/IB6/P0/B0	enabled	-	untest	66/33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P0/B1	enabled	-	untest	33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P1/B0	enabled	-	untest	66/33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P1/B1	enabled	-	untest	33MHz. PCI Bus
/N0/IB6/P0/B1/PCI0	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B1/PCI1	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P0/B0/PCI5	enabled	-	untest	66/33MHz. 3.3V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/PCI2	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/PCI3	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card
/N0/IB6/P1/B1/PCI4	enabled	-	untest	33MHz. 5V Short PCI card

showdate

システムの現在の日付および時刻を表示します。

構文

```
showdate [-tv]  
showdate -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-v を指定すると、冗長モードになります。

-t を指定すると、設定できるタイムゾーンが表示されます。

説明

システムの現在の日付および時刻を表示します。また、-t -v を指定した場合は、設定できるタイムゾーンがすべて表示されます。

関連項目

setdate

例

コード例 16 showdate コマンド

```
lom>showdate  
Mon Apr 03 12:31:40 EDT 2000
```

showenvironment

システムの現在の環境状態、温度、電圧、ファン状態などを表示します。

構文

```
showenvironment [-ltuvw] [-p <part>] [<component>]  
showenvironment [-ltuvw] [<component>]  
showenvironment -h
```

オプション/パラメタ

-l を指定すると、選択された各測定値に適用されるしきい値が表示されます。しきい値を超えると、該当する警告情報が表示されます。

-p を指定すると、特定の情報が表示されます。<part> には、次の値を指定できません。

faults 推測値が表示されます。

temps 温度が表示されます。

voltage 電圧が表示されます。

fan ファン状態が表示されます。

-t を指定すると、ボードごとにタイトルを付けて表示されます。

-u を指定すると、すべてのセンサーへのポーリングが実行されて、最新の値が表示されます。

-v を指定すると、冗長モードになります。

-w を指定すると、選択した各測定値に適用される警告のしきい値が表示されます。

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

<component> には、FRU の名前を指定します。ここで指定した FRU の情報だけが表示されます。

説明

システムの現在の環境状態および温度、電圧、ファン状態などを表示します。

このコマンドを使用すると、監視されている各センサーに対して許容される最大値および最小値が表示されます。引数を指定せずにコマンドを実行すると、すべての環境情報が表示されます。

例

次に、showenvironment コマンドの出力例を示します。

コード例 17 showenvironment コマンド

```
lom>showenvironment

Slot Device      Sensor      Value Units      Age      Status
-----
SSC1 SBBC 0     Temp. 0    37    Degrees C  1 sec OK
SSC1 CBH 0      Temp. 0    45    Degrees C  1 sec OK
SSC1 Board 0    Temp. 0    24    Degrees C  1 sec OK
SSC1 Board 0    Temp. 1    22    Degrees C  1 sec OK
SSC1 Board 0    Temp. 2    28    Degrees C  1 sec OK
SSC1 Board 0    1.5 VDC 0  1.49 Volts DC  1 sec OK
SSC1 Board 0    3.3 VDC 0  3.35 Volts DC  1 sec OK
SSC1 Board 0    5 VDC 0   5.01 Volts DC  1 sec OK
/N0/PS0 Input 0 Volt. 0      - -      6 sec OK
/N0/PS0 48 VDC 0 Volt. 0    48.00 Volts DC  6 sec OK
/N0/PS1 Input 0 Volt. 0      - -      5 sec OK
/N0/PS1 48 VDC 0 Volt. 0    48.00 Volts DC  5 sec OK
/N0/FT0 Fan 0    Cooling 0   Auto     5 sec OK
/N0/FT0 Fan 1    Cooling 0   Auto     5 sec OK
/N0/FT0 Fan 2    Cooling 0   Auto     5 sec OK
/N0/FT0 Fan 3    Cooling 0   Auto     5 sec OK
/N0/FT0 Fan 4    Cooling 0   Auto     5 sec OK
/N0/FT0 Fan 5    Cooling 0   Auto     5 sec OK
/N0/FT0 Fan 6    Cooling 0   Auto     5 sec OK
/N0/FT0 Fan 7    Cooling 0   Auto     5 sec OK
/N0/RP0 Board 0  1.5 VDC 0  1.51 Volts DC  5 sec OK
/N0/RP0 Board 0  3.3 VDC 0  3.35 Volts DC  5 sec OK
/N0/RP0 Board 0  Temp. 0    22    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP0 Board 0  Temp. 1    22    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP0 SDC 0    Temp. 0    63    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP0 AR 0     Temp. 0    47    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP0 DX 0     Temp. 0    62    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP0 DX 1     Temp. 0    66    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP2 Board 0  1.5 VDC 0  1.49 Volts DC  4 sec OK
/N0/RP2 Board 0  3.3 VDC 0  3.33 Volts DC  4 sec OK
/N0/RP2 Board 0  Temp. 0    24    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP2 Board 0  Temp. 1    23    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP2 SDC 0    Temp. 0    57    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP2 AR 0     Temp. 0    42    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP2 DX 0     Temp. 0    53    Degrees C  5 sec OK
/N0/RP2 DX 1     Temp. 0    56    Degrees C  5 sec OK
/N0/SB0 Board 0  1.5 VDC 0  1.50 Volts DC  4 sec OK
/N0/SB0 Board 0  3.3 VDC 0  3.33 Volts DC  5 sec OK
```

コード例 17 showenvironment コマンド (続き)

/N0/SB0	SDC	0	Temp.	0	49	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	AR	0	Temp.	0	39	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	DX	0	Temp.	0	50	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	DX	1	Temp.	0	55	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	DX	2	Temp.	0	58	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	DX	3	Temp.	0	53	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	SBBC	0	Temp.	0	53	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	Board	1	Temp.	0	28	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	Board	1	Temp.	1	26	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	CPU	0	Temp.	0	56	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	CPU	0	1.8 VDC	0	1.72	Volts	DC	5	sec	OK
/N0/SB0	CPU	1	Temp.	0	50	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	CPU	1	1.8 VDC	1	1.74	Volts	DC	5	sec	OK
/N0/SB0	SBBC	1	Temp.	0	40	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	Board	1	Temp.	2	28	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	Board	1	Temp.	3	29	Degrees	C	5	sec	OK
/N0/SB0	CPU	2	Temp.	0	53	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB0	CPU	2	1.8 VDC	0	1.72	Volts	DC	6	sec	OK
/N0/SB0	CPU	3	Temp.	0	49	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB0	CPU	3	1.8 VDC	1	1.72	Volts	DC	6	sec	OK
/N0/SB2	Board	0	1.5 VDC	0	1.52	Volts	DC	6	sec	OK
/N0/SB2	Board	0	3.3 VDC	0	3.35	Volts	DC	6	sec	OK
/N0/SB2	SDC	0	Temp.	0	51	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB2	AR	0	Temp.	0	41	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB2	DX	0	Temp.	0	52	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB2	DX	1	Temp.	0	55	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB2	DX	2	Temp.	0	61	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB2	DX	3	Temp.	0	53	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB2	SBBC	0	Temp.	0	52	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB2	Board	1	Temp.	0	27	Degrees	C	6	sec	OK
/N0/SB2	Board	1	Temp.	1	26	Degrees	C	7	sec	OK
/N0/SB2	CPU	0	Temp.	0	54	Degrees	C	7	sec	OK
/N0/SB2	CPU	0	1.8 VDC	0	1.72	Volts	DC	7	sec	OK
/N0/SB2	CPU	1	Temp.	0	52	Degrees	C	7	sec	OK
/N0/SB2	CPU	1	1.8 VDC	1	1.73	Volts	DC	7	sec	OK
/N0/SB2	SBBC	1	Temp.	0	43	Degrees	C	7	sec	OK
/N0/SB2	Board	1	Temp.	2	27	Degrees	C	7	sec	OK
/N0/SB2	Board	1	Temp.	3	27	Degrees	C	7	sec	OK
/N0/SB2	CPU	2	Temp.	0	51	Degrees	C	7	sec	OK
/N0/SB2	CPU	2	1.8 VDC	0	1.71	Volts	DC	7	sec	OK
/N0/SB2	CPU	3	Temp.	0	51	Degrees	C	7	sec	OK
/N0/SB2	CPU	3	1.8 VDC	1	1.71	Volts	DC	7	sec	OK
/N0/IB6	Board	0	1.5 VDC	0	1.51	Volts	DC	7	sec	OK
/N0/IB6	Board	0	3.3 VDC	0	3.29	Volts	DC	7	sec	OK
/N0/IB6	Board	0	5 VDC	0	4.95	Volts	DC	7	sec	OK
/N0/IB6	Board	0	12 VDC	0	11.88	Volts	DC	7	sec	OK
/N0/IB6	Board	0	Temp.	0	30	Degrees	C	7	sec	OK

コード例 17 showenvironment コマンド (続き)

/N0/IB6 Board 0	Temp. 1	28	Degrees C	7 sec OK
/N0/IB6 Board 0	3.3 VDC 1	3.30	Volts DC	7 sec OK
/N0/IB6 Board 0	3.3 VDC 2	3.30	Volts DC	7 sec OK
/N0/IB6 Board 0	1.8 VDC 0	1.81	Volts DC	7 sec OK
/N0/IB6 Board 0	2.5 VDC 0	2.51	Volts DC	7 sec OK
/N0/IB6 Fan 0	Cooling 0	High		3 sec OK
/N0/IB6 Fan 1	Cooling 0	High		3 sec OK
/N0/IB6 SDC 0	Temp. 0	63	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 AR 0	Temp. 0	73	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 DX 0	Temp. 0	68	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 DX 1	Temp. 0	72	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 SBBC 0	Temp. 0	49	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 IOASIC 0	Temp. 0	45	Degrees C	8 sec OK
/N0/IB6 IOASIC 1	Temp. 1	51	Degrees C	8 sec OK

showenvironment の出力ヘッダーの詳細は、表 9 を参照してください。

表 9 showenvironment コマンドの出力ヘッダーの定義

コード例のヘッダー	値	説明
Slot		スロット ID
Device		センサーが監視している装置
Sensor		装置の環境データを測定するコンポーネント
Value		センサーが戻した値 (Age 列に示されている経過時間 (秒) 前のデータ)
Units		センサーが使用する単位 (有効な単位は「値」列を参照)
	C	摂氏温度
	V	ボルト
Age		値を取得してから表示されるまでの経過時間 (秒)
Status		状態についての値 (「値」列を参照)
	*** WARNING HIGH ***	値が最大しきい値を超えている
	* NOTICE High *	値が警告と最大しきい値の間である
	* NOTICE Low *	値が最小しきい値に満たない
	*** WARNING LOW ***	値が最小しきい値に満たない
	OK	値が範囲内である
	failed	センサーの値を受信できない

showescape

現在のエスケープシーケンスを表示します。

構文

```
showescape  
showescape -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

現在のエスケープシーケンスを表示します。

関連項目

setescape

例

```
lom>showescape  
#.
```

showeventreporting

LOM ソフトウェアのイベントレポートおよびメッセージに適用される設定を表示します。

構文

```
showeventreporting  
showeventreporting -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

LOM ソフトウェアのイベントレポートおよびメッセージに適用される設定を表示します。

関連項目

```
seteventreporting
```

例

```
lom>showeventreporting  
eventreporting is default  
reporting level is fatal, warning & information (3)
```

showfault

システム障害 LED の状態を表示します。

構文

```
showfault  
showfault -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

システム障害 LED の状態を表示します。

関連項目

showalarm

例

```
lom>showfault  
fault is off
```

showhostname

システムのホスト名を表示します。

構文

```
showhostname  
showhostname -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

Solaris ホストのホスト名を表示します。

ホスト名は、Solaris オペレーティング環境が動作している場合にだけ表示されます。Solaris オペレーティング環境が動作していない場合は、- が表示されます。

関連項目

showmodel

例

```
lom>showhostname  
<hostname>
```

showlocator

システムロケータ LED の状態を表示します。

構文

```
showlocator  
showlocator -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

関連項目

```
setlocator
```

例

```
lom>showlocator  
locator is off
```

showlogs

メッセージのイベントログを表示します。

構文

```
showlogs  
showlogs -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

メッセージのイベントログを表示します。

関連項目

history、resetsc

例

```
lom>showlogs  
Nov 26 16:48:29 interpol-sc lom: [ID 746300 local0.warning] Alarm 1 ON  
Nov 26 16:48:36 interpol-sc lom: [ID 222144 local0.notice] Alarm 2 OFF  
Nov 27 11:20:38 interpol-sc lom: [ID 218048 local0.notice] Alarm 1 OFF  
Nov 27 11:20:43 interpol-sc lom: [ID 877372 local0.warning] Alarm 2 ON  
Nov 27 11:21:17 interpol-sc lom: [ID 352276 local0.notice] Locator ON
```

showmodel

プラットフォームモデルを表示します。

構文

```
showmodel  
showmodel -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

システムのプラットフォームモデルの名前を表示します。

関連項目

showhostname

例

```
lom>showmodel  
model: Sun Fire V1280
```

shownetwork

システムコントローラ (LOM) のネットワーク設定および MAC アドレスを表示します。

構文

```
shownetwork [-v]  
shownetwork -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-v を指定すると、冗長モードになります。システムの Ethernet (MAC) アドレスが表示されます。

説明

システムコントローラ (LOM) のネットワーク設定および MAC アドレスを表示します。

関連項目

setupnetwork

例

```
lom>shownetwork  
  
Network  
-----  
The system controller is configured to be on a network.  
Network settings: static  
Hostname: commando-sc  
IP Address: 129.xxx.xxx.xxx  
Gateway: 129.xxx.xxx.xxx  
DNS Domain: noone.somewhere.com  
Primary DNS Server: 129.xxx.xxx.xxx  
Secondary DNS Server: 129.xxx.xxx.xxx
```

```
lom>shownetwork -v
```

```
Network
```

```
-----
```

```
The system controller is configured to be on a network.
```

```
Network settings: static
```

```
Hostname: commando-sc
```

```
IP Address: 129.xxx.xxx.xxx
```

```
Gateway: 129.xxx.xxx.xxx
```

```
DNS Domain: noone.somewhere.com
```

```
Primary DNS Server: 129.xxx.xxx.xxx
```

```
Secondary DNS Server: 129.xxx.xxx.xxx
```

```
MAC Address
```

```
HostID
```

```
-----
```

```
-----
```

```
Host net0 08:00:xx:xx:xx:xx
```

```
80xxxx01
```

```
Host net1 08:00:xx:xx:xx:xx
```

```
80xxxx02
```

```
SC net 08:00:xx:xx:xx:xx
```

```
80xxxx0a
```

showresetstate

異常になった Solaris のリセットが行われたあとの CPU レジスタを表示します。

構文

```
showresetstate [-w|-s|-v] [-f <URL>]  
showresetstate -h
```

オプション/パラメタ

-w を指定すると、ウィンドウが表示されます。

-s を指定すると、二次保存レジスタが表示されます。

-v を指定すると、すべてのレジスタが表示されます。

-f には、出力用の URL を指定します。

<URL> は、出力を受信するためのファイルです。

サポートされるプロトコル: FTP

ftp://[<userid>:<password>@]<hostname>/<path>

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

異常になった Solaris のリセット (たとえば、Solaris ウォッチドッグによるタイムアウトの結果としてのリセット) が行われたあとの CPU レジスタを表示します。

showsc

システムコントローラのバージョンおよび稼働時間に関する情報を表示します。

構文

```
showsc [-v]  
showsc -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-v を指定すると、冗長モードになります。

説明

システムコントローラのバージョンおよび稼働時間に関する情報を表示します。

例

コード例 18 showsc コマンド

```
lom>showsc  
SC: SSC1  
Clock failover disabled.  
  
SC date: Fri Jul 26 17:44:25 BST 2002  
SC uptime: 2 hours 28 minutes 8 seconds  
  
ScApp version: 5.13.0007 LW8_build0.7  
RTOS version: 23  
  
Solaris Host Status: Active - Solaris  
  
lom>
```

shutdown

Solaris を停止し、スタンバイモードにします。

構文

```
shutdown  
shutdown -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

説明

Solaris が動作している場合は、システムを正常に停止してから、電源を切ってスタンバイモードにします。Solaris が動作していない場合は、システムの電源を切ってスタンバイモードにします。

このコマンドは、poweroff コマンドよりも優先して使用してください。

関連項目

poweron、poweroff

例

```
lom>shutdown  
Shutting down Solaris ...  
lom>  
lom>console  
  
The system is down.  
syncing file systems... done  
Powering off ...  
lom>Powering boards off ...
```

testboard

指定された CPU/メモリーボードをテストします。

構文

```
testboard [-f] <board_name>  
testboard -h
```

オプション/パラメタ

-h を指定すると、このコマンドのヘルプが表示されます。

-f を指定すると、テスト済みのボードを強制的にテストします。

<board_name> には、テスト対象ボードを指定します。sb0、sb2、sb4 のいずれかを指定する必要があります。

説明

コマンド行で指定した CPU/メモリーボードで POST を実行します。このとき、ボードは Solaris で使用されていない (showboards コマンドで表示される状態が Active でない) 状態にしておく必要があります。ボードの状態を表示するには、showboards コマンドを使用します。

例

CPU/メモリーボード sb0 をテストする場合は、次のように入力します。

```
lom>testboard sb0
```

用語集

FRU	現場交換可能ユニット。電源装置または CPU/メモリーボード、ファンなどのシステムの個別部分。
LOM	Lights Out Management の略。
LOM プロンプト	システム管理者のための操作環境。LOM プロンプトでは、設定の制御、環境状態の表示、電源の投入および切断、システムコントローラのパスワードの変更、システムコントローラのその他の機能を実行できる。 POST または Solaris オペレーティング環境、OpenBoot PROM が動作しておらず、システムコントローラソフトウェアだけが動作していれば、LOM プロンプト (lom>) を使用できる。 また、コンソールメッセージを表示することもできる。
POST	電源投入時自己診断 (Power-on self-test) 。初期化されていないシステムハードウェアのコンポーネントを検索およびテストし、一貫性のある初期化済みのシステムに構成して、OpenBoot PROM に渡すプログラム。
ScApp	システムコントローラ上で動作するソフトウェアアプリケーション。システム設定を変更するためのコマンド行インタフェースを提供する。
SEEPROM	Serial Erasable Programmable Read-Only Memory の略。
仮想時刻 (TOD : Time of Day)	システムコントローラボードには、TOD/NVRAM チップが搭載されている。システムコントローラは、物理的に TOD チップを多重化して TOD サービスを提供する。
環境監視	すべてのシステムには、温度および電圧、電流を監視する多くのセンサーがある。システムコントローラは、適時に装置にポーリングし、有効な環境データを提供する。システムコントローラは、損傷を防ぐためにさまざまなコンポーネントを停止できる。
システムコントローラ	システムのベースプレーンに接続された IB_SSC 部品に常駐する組み込みシステム。電源投入処理、モジュールの電源投入時自己診断 (POST) の制御、環境監視、障害表示、アラームなどの Lights Out Management (LOM) 機能を提供する。

索引

B

bootmode コマンド, 4
break コマンド, 6
break コマンド、使用不可, 38

C

console コマンド, 7
CPU/メモリーボード、テスト, 70

D

disablecomponent コマンド, 8

E

enablecomponent コマンド, 10

F

flashupdate コマンド, 13

H

help コマンド, 15
history コマンド, 17

I

inventory コマンド, 18

L

logout コマンド, 19

P

password コマンド, 20
poweroff コマンド, 21
poweron コマンド, 22

R

reset コマンド, 24
reset コマンド、使用不可, 38
resetsc コマンド, 26

S

SCPOST、設定レベル, 38
SEEPROM の内容、表示, 18
setalarm コマンド, 28
setdate コマンド, 29
setlocator コマンド, 35

setupnetwork コマンド, 36
setupsc コマンド, 38
showalarm コマンド, 40
showboards コマンド, 41
showcomponent コマンド, 50
showdate コマンド, 53
showenvironment コマンド, 54
showescape コマンド, 58
showeventreporting コマンド, 59
showfault コマンド, 60
showhostname コマンド, 61
showlogs コマンド, 63
showmodel コマンド, 64
shownetwork コマンド, 65
showresetstate コマンド, 67
showsc コマンド, 68
shutdown コマンド, 69
Solaris の起動設定, 4

T

testboard コマンド, 70

あ

アラーム、設定, 28
アラーム、設定の表示, 40

い

イベントレポート、状態の表示, 59
イベントログ、表示, 63

う

ウォッチドッグ、使用不可, 38

え

エスケープ文字、表示, 58

お

オン/スタンバイスイッチ、使用不可, 38

か

稼動時間およびバージョン情報、表示, 68
環境、測定値の表示, 54

き

起動、設定, 4

こ

更新、フラッシュ PROM, 13
コマンドの概要, 1
コマンド履歴, 17
コンソール接続, 7
コンソールポートのコマンド, 1
コンポーネント
 使用可能, 10
 使用不可, 8
コンポーネント、表示, 50

し

時刻、設定, 29
時刻、表示, 53
システム LED、設定, 35
システム、リセット, 24
システムコントローラ、設定, 38
システムコントローラ、リセット, 26
システムコントローラソフトウェアコマンドの概要, 1
障害 LED、状態の表示, 60

使用可能、コンポーネント, 10
使用不可、コンポーネント, 8

せ

設定、時刻, 29
設定、日付, 29

て

テスト、CPU/メモリーボード, 70
電源の投入, 22

ね

ネットワーク、設定の表示, 65
ネットワーク、パラメタの設定, 36

は

バージョンおよび稼動時間情報、表示, 68
パスワード、設定, 20

ひ

日付、設定, 29
日付、表示, 53
表示
 バージョンおよび稼動時間情報, 68
表示、バージョンおよび稼動時間情報, 68

ふ

フラッシュ PROM、更新, 13
プラットフォーム、モデルの表示, 64
ブレーク文字, 6

ほ

ボード、テスト, 70
ボードの状態、表示, 41
ホスト名、表示, 61

り

リセット、システム, 24
リセット、システムコントローラ, 26
リセット状態、表示, 67

